共和コンクリート工業株式会社

実証済技術

「海藻増養殖用エンチョーネット」を用いた藻場造成

実証番号　閉鎖性海域：090-0703
導入先：導入時期　北海道森町砂原地区、北海道八雲町熊石地区：平成 23 年度～

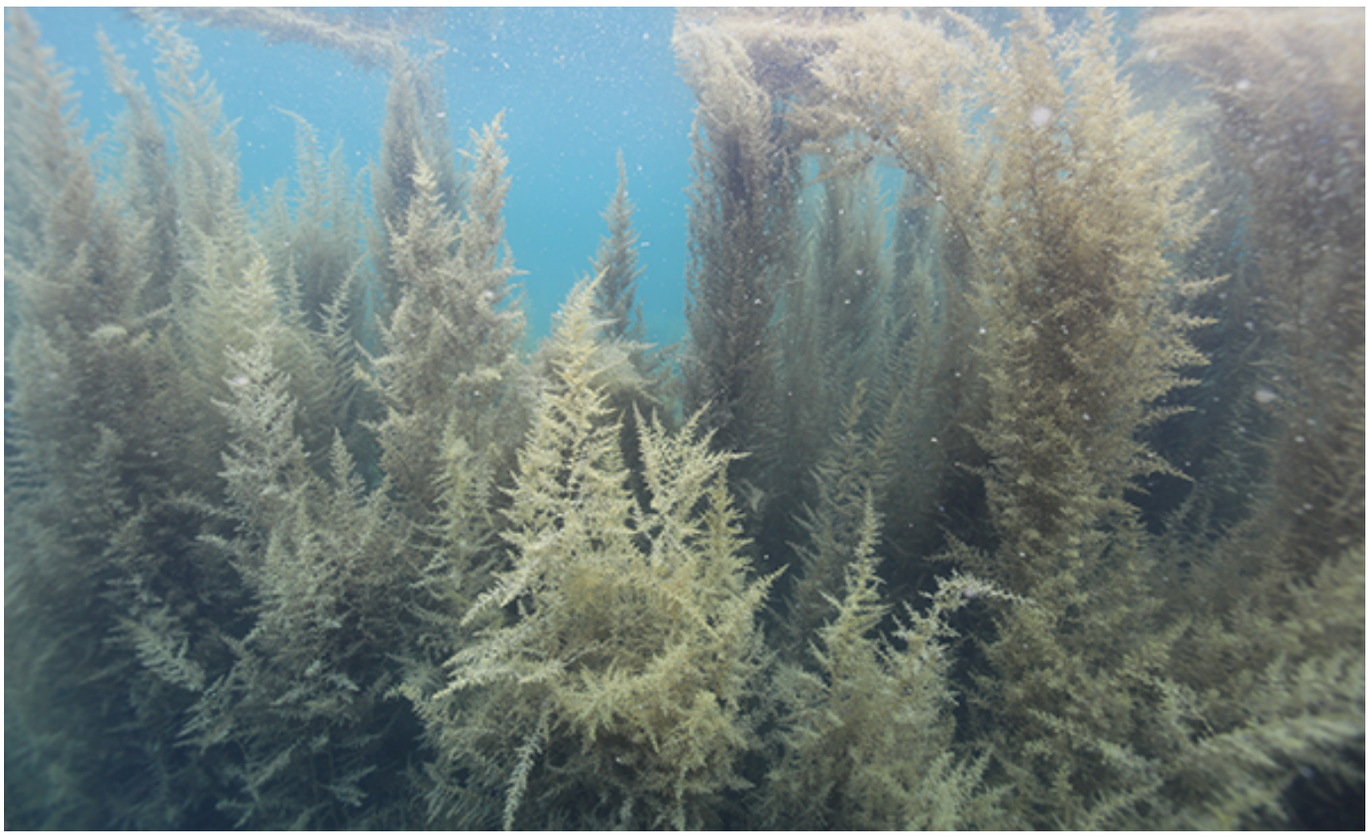
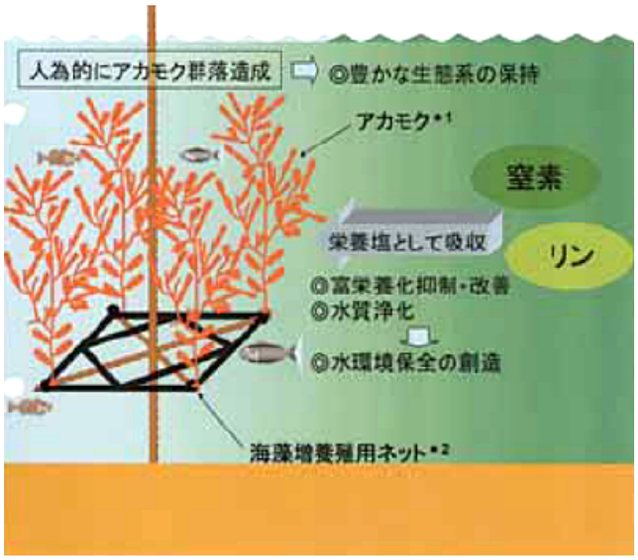


写真１　フシスジモク群落を形成（約 1 年半後の様子）

ETV に関する事業者様のエピソード

本技術は、幼体を移植して群落をつくる技術で、実証したのは、エンチョーネットを用いた移植方法です。移植方法は異なりますが、同じ群落形成技術で移植方法を改良したものがあります。こちらについては、幼体移植式藻場造成技術として問い合わせがくるようになり、事業化となりました。改良技術は、北海道噴火湾地区などでハタハタ産卵藻場造成事業等に導入されています。
実証事業設立当初ということで事業があまり知られていなかったこともあり、実証ロゴマークを十分活用したとは言えませんが、このような環境技術が客観的評価を得るということは重要だと感じており、今後の周知・普及に期待しております。

導入事例・技術概要



【ネット（松島型）】

塩ビパイプを十字に組みネットを固定する。これを竹に取付け、さらに、採取しやすいように、ネット引上げ用のロープを塩ビパイプに取付ける。上げ下げ自由。

【幼体】

室内で育て準備する幼体は、沖出時期においては、天然ものに比べて大きく、その後の生長が早いことが大いに期待される。藻体密度の設定も自由にできる。

“実証試験結果報告書の参考情報より”

フシスジモク幼体移植直後

ウガノモク幼体移植設直後

フシスジモク群落を形成（約 1 年半後の様子）

移植ウガノモク産み付けられたハタハタの卵塊（約 1～2 年後）

企業情報・連絡先

共和コンクリート工業株式会社
〒060-0808　札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 番地 札幌エルプラザ 11F
TEL 0138-24-8850　WebSite：http://www.kyowa-concrete.co.jp/

当資料に関して　ETV に関する事業者様のエピソード及び技術概要については、
事業者様の責任においてご紹介いただく内容であり、環境省及び実証機関は、内容に関して一切の責任を負いません。